

平成19年度

病害虫発生予察特殊報(第3号)

平成19年9月28日
神奈川県農業技術センター所長

病害虫名：ナシ炭疽病

作物名：ナシ

1 発生経過

- 平成19年7月に横浜市港北区及び伊勢原市のナシ園において、葉に褐色～暗褐色の不定形の病斑が生じているのを農業技術センター病害虫防除部職員が発見した。
- 伊勢原市の圃場で採取した被害葉を独立行政法人農業生物資源研究所ジーンバンクに同定依頼したところ、*Colletotrichum gloeosporioides*が同定され、炭疽病と診断された。
- 9月の巡回調査では、上記以外に横浜市緑区、川崎市麻生区・多摩区・宮前区、大和市、寒川町、開成町、大井町の圃場で同様の症状が確認された。これらの被害葉を採取し多湿条件下で保持したところ、*Colletotrichum gloeosporioides*によるサーモンピンクの分生子層が形成され、炭疽病であることが確認された。また、一部の地域では早期落葉が認められた。

2 病徴および病原の性質と伝搬方法

- 本県で確認された主な症状は、葉身における褐色～暗褐色の不定形の病斑であり、大きさは数ミリ程度の病斑から葉のほとんどが変色したもので様々であった。9月の調査では早期落葉している樹も確認され、一部の樹では不時開花していた。
- 病原菌の伝染経路については不明な点が多いが、罹病葉上で越冬し、翌年分生子を生じて伝染する経路が知られている。
- 比較的高温期に発生しやすく、第一次伝染源となる胞子が形成される6月上旬～7月にかけて、曇雨天日が続くと多発する。病原菌は20～30℃で旺盛に生育し、分生子の発芽適温は30℃付近である。

3 防除対策

- 落葉は伝染源となるので、集めて土中に埋めるなどの処分を徹底する。
- 多発園では、枝数を通常よりやや少なく剪定し、通風が良好となるようにする。
- 樹上に残存した菌糸に基づく胞子形成開始期にあたる5月下旬頃からの薬剤散布では、前年枝にむらなく薬剤がかかるようにていねいに散布する。
- ナシ炭疽病に適用のある薬剤

薬剤名	希釈倍率	使用時期	使用回数	その他の適用病害	
				黒星病	うどんこ病
ストロビードライフロアブル	2000倍	前日	3回	3000倍	2000-3000倍
アミスター10フロアブル	1000倍	前日	5回	1000-1500倍	1000倍
デランフロアブル	1000倍	60日	4回	1000倍	—
デランT水和剤	1000倍	45日	5回	1000-1500倍	—



初期の病斑(7月13日)



拡大した病斑(8月15日)



初期の病斑(7月20日)



早期落葉(9月11日)



早期落葉による不時開花(9月12日)

神奈川県農業技術センター
病虫害防除部

〒259-1204 平塚市上吉沢1617

TEL 0463-58-0333

FAX 0463-59-7411

テレホンサービス0463-58-6612

<http://www.agri.pref.kanagawa.jp/boujoshu/top.asp>